

近畿比例4議席回復
総選挙勝利へ3府県リレー宣伝



声を上げれば政治は変わる

きたる総選挙の比例代表近畿ブロックの4人の予定候補-こくた恵二衆院議員(京都1区重複)、宮本たけし前衆院議員(大阪5区重複)、清水ただし衆院議員(大阪4区重複)、こむら潤・尼崎市議(兵庫8区重複)は、21日、京都(京都タワー前)、神戸(三宮交通センター前)、大阪(JR天王寺駅北口)の3府県でリレー宣伝。国会報告を行い、コロナ後の新しい政治の実現、比例4議席回復を訴えました。4候補は7月5日には和歌山、奈良、滋賀でも訴えます。(訴えは概要。文責・ブロック事務所。写真は大阪・天王寺)

少人数学級実現を

こむら潤尼崎市議

3人の子の母親です。コロナで3カ月も休校を強いられた後、いきなり40人学級で6時間授業を強いられ、クタクタになって帰ってきます。詰め込み教育がいかにか負担になっているかを実感しています。コロナによる分散授業で少人数学級が行われ、先生から子どもの顔をよく見ながら授業ができたという声を聞いています。これを機会に少人数学級を実現したい、そのためには先生やスタッフを増やししっかりお金つけるよう求めています。声を上げれば政治は変わります。

カジノよりコロナ対策を

清水ただし衆院議員

日本共産党は一つの店も一つの会社もつぶしたらあかんと「自粛と補償は一体で」と政府に求め、持続化給付金できたのは大きな前進です。しかし一回こっきりではダメです。継続的支援を

求めます。一方、第二次補正予算の予備費10兆円。安倍のマスクの466億円は予備費です。国会に諮らず自由におカネをばらまくことができる。財政民主主義に反し、憲法を守らない政治を許してはなりません。

憲法改悪をアおっているのが維新です。維新はカジノに一生懸命ですが、コロナの下でラスベガス・サンズでさえ日本進出を断念しました。カジノよりコロナ対策、防災対策に力を入れる新しい政治をつくりましょう。

学費半額か住民投票か

宮本たけし前衆院議員

コロナは教育の根本を問うています。分散登校で15人、20人の授業をやってきたのは一番安全だからです。10万人の先生を増やせば少人数

20近畿ブロック事務所ニュース

Tel06(6975)9111 Fax06(6975)9115

【府県・地区・地方議員御中・部内資料】

No. 36(2020.6.22)

学級はやれる。1兆円あれば20人学級に踏み出せる。コロナで傷ついた子どもらに少人数学級をプレゼントするくらい当たり前です。

コロナで大学の中退を考えている人が2割いる。学費半額署名が全国で取り組まれています。大阪市立大学で半額にするには16億円。都構想の住民投票には32億円。どちらがいいかはハッキリしている。コロナが終わったら、こんないい政治になったと振り返ることができるような希望ある政治を開きましょう。

市民と野党の共闘が政治動かした

こくた恵二・党国対委員長

●お困りごとは共産党へ

みなさん。コロナ禍の中で、暮らしはいかがですか。お困り事がありましたら、まず日本共産党へご相談ください。

京都に帰って、周りのお年寄りのお話を聞きますと、10万円の特別給付金の申請用紙が来て、「どう書いて申請すればよいのか困っている」「うちにはコピー機なんてあらへん」といわれる。コンビニに列ができる状態だそうです。政府には、国民の困り事に心を寄せようとする考えがない。持続化給付金の申請も含め、お一人おひとりの困難に心を寄せて解決するのが日本共産党です。だから、困ったときは共産党。みなで暮らしの危機を打開しようではありませんか。

私は今日、ここに来る前に東寺（教王護国寺）さん寄ってきました。21日は弘法大師の命日です。いつもは縁日がたつのですが、それも「自粛」と、止めざるを得ない。大変な状況が続きますが、私たちには次の希望がある。次の希望のためにしっかりと生きようではありませんか。このことを私は訴えたい。

●政府の対策は後手後手

閉会した国会でハッキリしたことは、まず、政府の対応が後手後手に終始した。また、「対策」は極めて小さく限定的であったということです。こうした中、苦しむ国民、中小業者のみなさんの困難に心を寄せて、政府の「対策」を変えさせてきたのは、市民と野党の共闘の力、市民の声であったということです。

一世帯30万円の限定的な支給を、いろいろと条件をつけてやろうとした「政府の対策は間違っている」と批判して、日本に住むすべての方に一

律10万円の給付金を実現させたのは野党であり、日本共産党です。市民の声と野党の共闘が政治を動かした。これも政府は、最初は渋っていましたが、中小零細企業の家賃補助、固定費補助を実現させたのも野党共闘の力です。市民と野党の共闘にこそ、新しい政治を切り開く未来への希望がある。このことを訴えて、今度の衆議院選挙、新しい大きなうねりを作り出したいと思います。

●安倍改憲策動退ける

みなさん。1月20日に召集された国会の施政方針演説で、安倍総理は何を訴えたのか。「国の大もとを決めているのは憲法である。この憲法を変えることが国会議員の使命であり、憲法審議会を開き審議するのが国会の役割である」という趣旨の発言を行い、憲法改悪の宣言を行ったのです。

安倍総理いわく、「自民党は改憲の4項目を提案しているが、それは私の考えとは違う。私は憲法9条に自衛隊を明記する、憲法に自衛隊を書き込むことが私の考えだ」と主張していた。それがコロナ危機が始まると、自民党の4項目の一つ、緊急事態条項を言い始めた。これほどいい加減なことはないのですが、しかし、国民世論と私たちのたたかいは、安倍総理の企みをきっぱりと退けたのです。たった1回、憲法審議会を開催させただけで退けた。ついに5回の国会連続で憲法改悪の策動、これを許さないたたかいは私たちは野党共同でやっているのです。

いま、私たちは「国会を閉じる必要はない」「コロナ対策で、国民の苦難に応えるしっかりとした審議をやろうではないか」と野党は、国会の会期を12月28日まで194日間延長して国民の苦難解決のためにいうことを提案しました。政府・与党は河井前法相夫妻逮捕問題など、追及を恐れて国会を閉じました。

しかし、国民の世論と野党の取り組みで、国会閉会中も審議を色々な委員会で行うことに持ち込んだのです。ここにも、市民と野党の共闘の力が発揮されて成果を得たのです。

行き詰まった自民党政治に変わる新しい政治の展望を切り拓く力は、市民と野党の共闘にこそ、また、日本共産党の躍進にこそあります。

●東京・宇都宮さんへの支持広げよう

最後に東京都知事選挙について、一言訴えます。7月5日投開票で東京都知事選かたたかわれています。全国どこにでも東京にはお知り合いがあらうかと思います。ぜひ、東京都知事選挙では、野党が共同して推す、宇都宮けんじさんをと、広げていただきたい。新しい政治を、ご一緒に切り拓こうではありませんか。